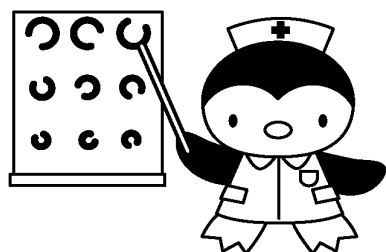


太陽の子保育園平成30年11月発行

風が冷たく感じられるようになってきました。木々の葉も赤や黄に色づいて、耳をすませば、冬の足音が聞こえてくるようです。

かぜをひいている人も増えています。こまめにうがいや手洗いをし、かぜのウイルスを近づけないようにしましょうね。



らいおん組・くま組さんが視力検査をしました。正確なデータではないので、あくまでも目安です。心配な方は眼科受診をおすすめします。

×-×-×-×-×-×-×

11月の保健行事

- ・0歳児検診
7日9:30~
- ・4歳児保健指導
14日
- ・5歳児保健指導
21日
- ・身体測定
19日~22日

×-×-×-×-×-×-×

アレルギーには過敏にならずに

最近の食品には、アレルゲンとなる成分が明記されるようになりました。また、飲食店のメニューなどに書かれているのもよく目にします。

いろんなところにたくさん書かれているのですが、過敏になるのは要注意。お子さんにはバランスのよい栄養の摂取が大切なので、気になる症状が出るようなら最寄りの病院で相談し、アレルゲンを特定してもらいましょう。制限するのはそれからです。



りんご病(妊婦も注意を)

りんご病(伝染性紅斑)とは、ほおがりんごのように赤くなるためにそう呼ばれています。この病気は冬から春にかけて流行することが多いので、その季節は特に気をつけましょう。また、妊婦がりんご病に感染すると、赤ちゃんの命にかかわってきます。妊娠初期の妊婦は、りんご病の子どもに近づかないようにしましょう。

インフルエンザが流行する季節になりました

(原因) インフルエンザウイルスABC型の接触感染、飛沫感染により、鼻腔・咽頭から侵入し、上気道の粘膜上皮細胞で増殖する。また、呼吸器症状のある患者からの気道分泌物により接触感染もおこる。潜伏期間は1~3日。

(症状) 悪寒、発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛が突然あらわれ、続いて咳嗽、鼻汁などの上気道炎症状があらわれる。消炎器症状を伴うこともある。合併症がなければ2~4日で解熱し、軽快する。発症して3~4日は感染力がある。

(合併症) 細菌感染を重複すると重篤化しやすい。学童では、年間50~100万人がインフルエンザに罹患し、インフルエンザウイルス脳炎・脳症を合併するのは、100~300人とされている。

(治療) 保温・安静のほか、上気道症状に対して対症療法を行う。初発症状発来後48時間以内であれば、抗ウイルス剤が有効である。

・合併症としてよく見られるのは、肺炎です。体力のない乳幼児が肺炎をおこすと、命にかかわることもあります。

・インフルエンザは発症時であれば、薬により症状の軽減と罹病期間の短縮が期待できます。早めに受診することが大切です。

・インフルエンザワクチンの予防効果はほかのワクチンと比べるとそれほど高くなく、予防接種だけでは、感染を防ぐことができません。しかし、予防接種は重症化予防に一定の効果あるとされています。免疫の持続期間は約5カ月とされています。また、接種してから抗体ができるまで2~3週間かかります。予防接種を受ける場合は、早めに接種しましょう。



風疹について

○国立感染症研究所は2018年10月の累計風疹患者数が、2017年の14倍となり、過去に流行した、2013年、2012年について三番目となっていると発表しました。

○2012年は2,386人、2013年は14,344人の患者が報告され、この流行に関連した先天性風疹症候群は、45人確認されています。

○先天性風疹症候群とは
風疹に対する免疫が不十分な妊娠初期の女性が風疹ウイルスに感染すると、胎児も風疹ウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れ等の症状をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。赤ちゃんのこれらの病気を先天性風疹症候群といいます。

○妊婦健診で低いと指摘される、抗体価(HI抗体<1:8, 1:8, 1:16)の割合は
20代前半で20%
20代後半で24%
30代前半で16%
30代後半で12%
40代前半で16%
40代後半で19%

これらのひとは、妊娠中の風疹ウイルス感染に注意が必要です。また、産後早期のワクチン接種が推奨されています。

○風疹はワクチンで予防可能な感染症です。

- ・風疹にかかったことがない方
- ・風疹ワクチンを受けていない方

どちらも不明の方 接種することをご検討ください。2回接種しても問題はありません。

○昭和54年4月2~平成7年4月1生まれの男性は接種率が低い。また、昭和54年4月1日以前生まれの男性は子どもの頃に定期接種のチャンスがありませんでした。

○妊婦さんと赤ちゃんを守るために、成人男性も予防接種を受けましょう

